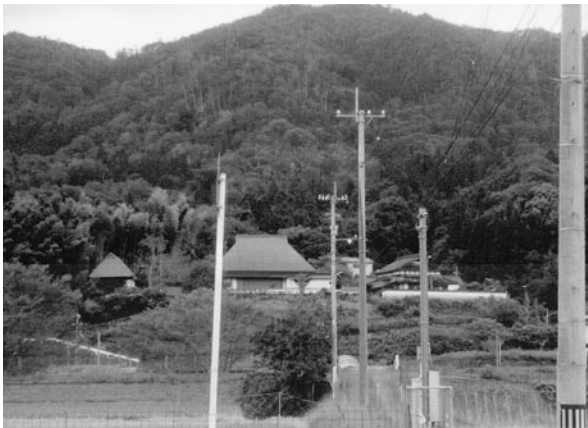


▶中国山地、出雲街道。ひとは作業所辺り。



①広島からのメッセー  
昨年25年振りに広島カープがリーグ優勝した。惜しくも日本一にはなれなかったが選手と熱狂的なファンが一つになって優勝を手に入れていく様子がTVの画面を通して伝えられた。

### 特集 改めて自然・命・平和を言葉に

あの原爆が落とされた広島

の街。昭和25年、広島カープは廃墟の街、広島市民の希望の燈として産声をあげた。その資金の多くは市民の浄財であった。当時、本拠地・広島市民球場は原爆ドームに程近く、ナイターの試合ではその光りの中に原爆ドームが浮かび上がって見えた。そして、戦後72年の歳月。貧乏・弱小球団は広島町の復興と重なるように力を貯えてい

#### あなたの独りよがり

あなたの独りよがり  
さもわたしのことをわかったふりをするのはやめてください。  
あなたの前のわたしは  
わたしであってわたしではないのです。  
あなたがあなたぶって  
わたしを見るように  
わたしはわたしぶって  
あなたをみているのです。  
あなたの未熟さを隠すために  
できないことだけ並べ立て  
わたしのせいにしないでください。  
あなたの知らないわたしには  
素敵なわたしが潜んでいます。  
あなたが専門家ぶればぶるほど  
私は私でなくなるでしょう。  
わたしはいつもたった一人のわたし  
譲ることのできないわたしです。  
何より先に笑顔が見えた時  
何より先にぬくもりが伝わった時  
わたしはわたしを取り戻すのです。  
頼りないから？を大切に  
発見があるから！と驚く  
人という字が描いてくれる  
あなたとわたしが支えあう  
言葉はなくても、伝わってくる  
あなたがただの人なら、わたしもただの人

寺尾文尚著 “自生ということ”より

く。広島は中国地方の中心であり、そこから四方に街道が走る。その一つが出雲街道。途中の向原町にその施設はある。〴〵とは作業所である。入口の築百年の土蔵が迎えてくれる。作業所の製品が展示販売されている。そこから眺める景色。中国山地の低い山並み。裾野に昔ながらの民家と棚田とが調和して何とも懐かしい里山風景。江戸の昔からそう変わらない日本の原風景を見るようだ。施設長の寺尾さんは無認可の施設づくりか

ら出発。筋金入りの〴〵この人たちの命に寄り添ってきた〴〵方だ。私は長崎の〴〵なずな園〴〵主宰者・近藤原理先生の研修で寺尾さんとながった。研修夜の懇親会で弾んだ話は、阪神タイガースと広島カープの都合の良い自慢話。以来、細々とご縁は続いて今日に至った。その寺尾さんからこの暮れに〴〵自生ということ〴〵題する冊子が届いた。私たちの仕事は〴〵の人たちの命〴〵と向き合うこと。そして、その為には何より〴〵平和〴〵でなければならぬこと。そのこととがどこかあまいに、ないがしろにされている昨今の世情。そのことへの自省も含めた沢山の問い掛けがこの〴〵自生ということ〴〵に記されていて、何だか正月気分は吹き飛んだ。(武井)



発行日 2017. 1. 31  
第 236 号  
(第 1 回発行)  
1974年 4月 1日  
発行所 北総育成園  
千葉県香取郡東庄町  
笹川い5852  
☎ 0478-86-3003  
FAX 0478-86-3295

北総育成園のホームページが  
新しくなりました！  
施設の概要や理念、利用者の様子、  
園長からのお知らせ等、盛りだくさん！  
ぜひアクセスしてみてください。  
ホームページアドレス  
<http://www.hokuso-ikuseien.org/>  
Eメールアドレス  
hokusoikuseien@e-sazankakai.or.jp

特集  
改めて「自然・命・平和」を言葉に

② 四千羽の折鶴の行方

北総育成園には研究委員会という組織があります。研究委員会の活動の一つとして、自分たちの身近にある「平和」や「命」について考える『平和学習』があります。北総の平和学習は、昭和54(1979)年、長崎・近藤原理先生主宰「なずな障害者福祉合宿研修」に園長が初参加したことから始まりました。障害者福祉の先駆者である原理先生は長崎の原爆でお兄さんを亡くし、「平和」と「福祉」をテーマに、お兄さんの亡くなられた8月9日を挟んだ3日間「なずな合宿研」を行ってきました。この合宿研で園長が「平和なくして福祉なし」という原理先生の教えを学びました。「平和なくして福祉なし」。平和な世の中だからこそ、障害を持ったこの人たちの命が大切にされることを表した言葉です。以来、研究委員会が主体となって平和を考える活動を実践し、今日まで継続しています。



平和学習の一つに「千羽鶴折り」があります。平和への願いを込めて、利用者、職員皆で一つ一つ折る千羽鶴の源流は、平成4年に長崎・南島原深江のコスモス会と姉妹の縁を結んだことから始まりました。長崎は原爆が投下された地。毎年、終戦した8月にむけて、利用者・職員で平和や命の大切さを考える機会として千羽鶴折りに取り組み、姉妹結縁以来24年間、コスモス会へ職員が夏季研修で訪れた際には平和公園へ千羽鶴を納めることを継続してきました。もうひとつの被災地である広島へは昭和63年に平和を考える旅として利用者、職員で訪れ、原爆で亡くなった人を火葬した似島にある似島学園との交流の際、千羽鶴を納めたことが始まり。その後広島へ千羽鶴を届けることは中断していましたが、平成23年に広島出身の職員が北総に来てくれたことが縁で、再び広島へ千羽鶴を納めることを再開、継続しています。現在は長崎なずな合宿での園長の仲間である広島県ひとは福祉会の寺尾先生が平和公園へ千羽鶴を届けてくださっています。そして、東日本大震災で甚大な津波の被害にあった宮城県亘理町へもボランティア活動を続け、H24年から千羽鶴を届けています。今年も津波と原発事故の二重の被災地となつてし

まった福島県南相馬市に千羽鶴を届けました。

また長崎なずな合宿での園長の仲間である沖繩蒼生学園の砂川先生との縁で、平成25年からは6月23日の「慰霊の日」に合わせて開催される沖繩なずな合宿に参加し、沖繩へも千羽鶴を届けています。太平洋戦争で想像を絶する悲惨な戦場となった沖繩も平和の大切さを深く考えさせられる地です。

「平和なくして福祉なし」。どんなに時代が変わってもこの思いは不変です。そして知的障害を持つこの人たちの命を守る我々こそが自ら「平和なくして福祉なし」のメッセージを発信していかなければならないと、今、改めて思います。

(研究委員会主任 保科智子)

① 長崎平和公園

長崎の姉、コスモス会研修を終え、長崎市内の平和公園へ向かう。原爆が落とされた9日当日とあって、夕方5時近かったが、まだ大勢の人が出入りしていた。会場入り口には「ながさき原爆の写真展」と題し、原爆投下直後の写真や、その後の被害状況を生々しく伝える写真が展示されていた。以前見たことのある写真も

あったが、その悲惨さは色褪せることなく訴えるものがあつた。平和の像の前には昼間行われた式典

で献納された花輪があつたり、全国各地から届けられた千羽鶴もたくさんあつた。全国ネットのニュース番組の生中継も行われていた。長崎県の小学校は登校日ということ。また、原爆が投下された11時2分には町中にサイレンが鳴り響き、県民の皆さんは手や足を止めて手を合わせ

る。平和への想いが一年の内が一番強くなる日。平和公園には学生さんや、小さい子供を連れた若いお母さん、また、外国の方の姿も多い。実際にその地に足を運び、71年前この地で何が起きたのか学び、伝えることは本当に意味のあることだと感じる。(絵鳩)



▶ 姉妹施設コスモス会研修の次の日。長崎県平和公園、平和の鐘。H28・8・9

## 2 広島平和公園

広島平和公園に北総の千羽鶴を届けてくださったというひとは福祉会の寺尾先生よりお手紙を頂きました。

武井様、各位

暑い日が続きます。相模原事件はやり切れないと思います。今ひとにできることは何か、問われねばなりません。

遅くなりましたが、折り鶴献納時の写真を送付します。どうも私の腕が未熟で、持参した時の雰囲気がよく出ていません。お許しください。(2016年8月17日)

北総OGで広島出身の川上さんより武井園長宛てにお手紙を頂きました。川上さんは在職中、北総の千羽鶴を広島へ届けてくれました。

2年前に広島に帰り、現在は老人福祉、介護の現場で働いています。一輪の花とスリッパ揃えの心は今でも強く染みついています、自然と行動に出ます。大変な事もたくさんありますが「大変さを楽しむ」「ゆとり・ユーモア・夢」という言葉を時々思い出し、利用者の皆さんのため、これからも頑張っていきます。

今日は8月6日。原爆が広島に投下された日です。先月亡くなった祖母も原爆死没者名簿に載せていただきました。たくさんさんの犠牲や、大変な思いをされた方々の努力があったからこそ、今の私たちの生活があること、感謝の思いと平和への願いをこれからもずっと心に持ち続けます。北総でも毎年、平和について皆で考える時間を持ち、その中で広島のことを思っ千羽鶴を託して下さったこと、今でも感謝しています。(川上 美緒)



▶ 広島県平和公園にはひとは作業所寺尾先生が届けてくださった。H28・8・4

## 3 沖縄県平和祈念資料館

6月17日、本島南部の糸満市にある沖縄平和祈念公園へ。23日の沖縄慰霊の日に向け公園内は式典準備が進められていた。平和の礎には国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなった約20万人にも及ぶ人々の氏名が刻まれていた。礎の前では親なのか家族なのか友人なのか、ただ一心に礎を見つめ座る女性の姿。黒い礼服の年配者の姿も多くあった。平和の礎に隣接する平和祈念資料館には、沖縄戦を中心に沢山の写真や資料が展示されていた。園長に教えていただいたが、沖縄の戦争資料はアメリカだけでなく、日本軍がしてきた真実をしっかりと資料として残しているという。その中には信じがたいが、日本軍の強制による集団自決、食料強奪により命を奪われた民間人もいるという事実が記されている。20万人の内、10万人を超える人々が民間人であった。人が人を当たり前に殺すという極限状態。そうせざるを得ない戦争の恐怖。(猪田)



▲ 沖縄県平和祈念資料館。H28.6.17 ちなみにこの沖縄千羽鶴を見た人がいた。現九州厚生局長(元千葉県障害福祉課課長)の吉野隆之さん。"まさか"の出会いを早速メールしてくれた。

## 4 東日本大震災被災地

### 福島県南相馬市

南相馬市の中心部は賑わっていたが、南下して旧小高町地域に入ると富岡町同様の無人の世界が広がっていた。町並みはおおむねきれいに整っているものの、アスファルトの裂け目から雑草が伸びた風景はアメリカ映画によくある人類が消えた世界のようなものである。まずは中心部にある小高神社に行き、その後、海沿いの地区に行ってみた。村上という地区は津波で集落が壊滅しており、一面が干潟と草原の原野になっていた。その中、海岸線の一角に小高い山があり、「村上城址」となっていたので行ってみた。城跡には小さな神社があり、海沿いで暖かいためか、周りは常緑の照葉樹の森で東庄の神社のようだった。その山の中腹にお墓があり、東日本大震災で亡くなった村上地区の方々62名の慰霊碑があったので、千羽鶴を献納してきた。(高木)



▲ 津波と原発の二重の被災地となった福島県南相馬市。震災から6年。決して風化させられない。H28.8.16

長崎の姉

## コスモス会姉妹交流

H28  
11/29~30

去る11月29日、1泊2日で長崎の姉、コスモス会の皆さん(職員2名、利用者3名)が来園してくださいました。平成4年に姉妹の絆を結び、今年で24年。北総からは毎年8月に長崎を訪ね、コスモス会の皆様との交流を深めてきました。また、コスモス会の研修と併せて、平和公園へ千羽鶴を届けることも毎年欠かさず行っている大切な取り組みです。昨年の8月にも職員4名でコスモス会を訪ね研修をさせていただきました。理事長の本田利峰先生の福祉に対する深い思いや、既存の枠に収まらない大きなお仕事を実際に見学し学べたことは、とても貴重な体験となりました。研修の中で利峰先生と武井園長の理念は相通じるものがたくさんあることがわかり、だからこそ、この姉妹交流が20有余年の永きに渡り継続されていると改めて実感できました。遠く離れた地ではありますが、同じ志を持ち、お互い切磋琢磨し合える姉妹の関係を今後も継続していきたいと思えます。来園された皆さんから感想を寄せていただきましたのでご紹介いたします。

## ①北総育成園を訪問して

コスモス会ノベル 次長 近藤 哲生

拝啓 寒冷の候 北総育成園の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、先月末の北総育成園訪問の際は、武井園長先生を初め職員・利用者

の皆様にはお忙しい中盛大な歓迎、また一つ一つ親切丁寧なご案内、ご説明をいただき、誠にありがとうございました。

また、各作業班にて作られた心温まるたぐさんのお土産までありがとうございました。

初日の歓迎会では華やかな芸座演奏と、姉妹提携をした調印式の日から現在に至るまでの写真をスライドショーにして見せていただきました。

利用者・職員の方々の若い頃を見て微笑ましく、また姉妹提携の長い歴史を深く感じる事ができました。私自身その頃のことは聞いた話でしか存じませんが、映像で振り返ってみると、経験してない私でもその光景が目には浮かぶようでした。

「百聞は一見に如かず」と言いますが、何かを伝えるとき、映像というのは本当に効果的だと思います。

写真に写っていた利用者の方の中には、既に亡くなっている方もおられるとのことでした。

当事業所、また他のどこの事業所も同じであると思えますが、北総育成園も利用者の方々の高齢化が進んでいるとのことでした。

しかし、見学させていただく中で一番強く感じたのは、皆さんそれぞれの年齢や能力、特技を踏まえ、できることを、毎日頑張って取り組まれているということでした。

そして、それぞれができる範囲での役割を担って利用者者と職員の皆さんが協力して何か一つの事を成し遂げておられると感じました。

また見学途中に、ある高齢の利用者の方が傾斜の掃き掃除をされておりました。

一見してすぐにわかる程、本当にきれいに掃かれており、その方はその掃き掃除を自分の役割として毎日続けておられるとのことでした。

小さなことでも一つの役割として継続することで、それはその人の生きがいになり、そのような毎日を積み重ねていくことで充実した豊かな人生が送れるのだと思います。

林産班の利用者の皆さんは、寒い中椎茸の原木運びを頑張っておられました。



▲卯年弥生座での歓迎会。一年振りの姉妹の再会。  
H28.11.29

た。

山から急傾斜の道を何度も往復されており、体力・忍耐力がなければ続けることができない大変な作業だと思います。

行動障害が激しいという利用者の方でも、たくましく原木を運んでいる姿を見ると、環境や役割というのが如何に大切かということを感じられます。他にも様々な作業班の活動を見させていただき、北総育成園の一つ一つの品物の完成度の高さには、いつも頭が下がる思いです。

また今年には須賀山城跡の方までご案内いただきました。武井園長先生のお考えの下、北総育成園の皆さんで山を切り開き、原木椎茸の作業を生み出し、由緒ある城跡の再生という地域貢献まで成し遂げておられるのを見て、当法人の理念でもある地域共生に通ずるものを強く感じた次第です。

障害者福祉を取り巻く環境は年々厳しさを増すばかりですが、時代の波に呑まれることなく、お互いに変化・進化を繰り返して、利用者の方々の幸せのため、姉妹の絆をより一層深め今後とも交流を続けていければと思います。

それでは、北総育成園の皆様が健康で元気に新しい年を迎えられます様、心よりお祈り申し上げます。

2日間に渡り、大変お世話になりました。ありがとうございました。

敬具

②北総育成園を訪問して

コスモスフェル 支援員 草野 明美

拝啓 師走の候 北総育成園の皆様におかれましては、益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、先月末からの北総育成園訪問の際にはお忙しい中、武井園長先生を初め職員の皆様、利用者の皆様には盛大な歓迎をしていただき有難うございました。私自身、法人内の他事業所より4月からレストにて勤務をさせていだき北総育成園との姉妹施設友好委員となり嬉しく思っております。

丁寧なご説明やご案内をしていただき感謝致しております。

体育館での歓迎会をしていただき、武井園長先生によるスライドを見ながらの説明を聞き、改めて姉妹施設の絆の深さ、歴史を知ることができました。利用者の方々の「若い時の写真」を見ることができ、人に歴史ありと言いますが、私の知らない当法人の利用者の方の人生の一部垣間見ることができ嬉しく思いました。また芸座演奏という素晴らしいものも見せていただき、一生懸命に踊り演奏される姿を見て感激いたしました。

また、お忙しい中、作業班のご案内もしていただき有難うございました。

園芸班では丹精こめられたシクラメンがビニールハウスの中でとても綺麗で目を奪われ、紙工芸班では、和紙の工程の説明を話していただき、和紙の

原料となる木も育てているとお聞きし、和紙作りに興味を持ちました。林産班ではシイタケの原木が置いてある山道を何往復もして運んでおられる姿を見て凄いと一言言葉しかありませんでした。更に陶芸や門松作り、笹川なづな工房、手芸介護班、ありのまま芸班と見せていただき、仕事に対する取組みや誇りを感じました。

敷地内を案内していただいた際に、屋外の階段を80歳に近い利用者の方が綺麗に落ち葉の掃除をされており、一枚も落ち葉が落ちておらず驚きました。作業では一人一人に役割を持たせ作業をされていると聞き、利用者の方の立場になって考えておられると改めて思いました。

新しいグループホームでは、地域になじむ建物として建てられたと説明を受け、玄関には花が飾られ、居室には日があたり、利用者の方が生活しやすいように考えられていました。

初めて訪問をさせていただき、驚き



▲3年に渡り整備を進めている地域の歴史遺産「須賀山城址本丸跡」を案内。皆、興味を持って見てくださ

と感動で時間があつという間に過ぎてしまいました。

武井園長先生初め職員の皆様、利用者の皆様とお会いし交流することができ、大変嬉しく思いました。今後この訪問での経験を生かし仕事をしたいと思っております。

最後に北総育成園の皆様の更なるご健勝とご多幸、また姉妹施設の今後益々の発展と友好をご祈念申し上げます。2日間大変お世話になりました。ありがとうございます。 敬具

※来園してくれた利用者の方からも感想を寄せていただきました。(原文をそのまま引用)

①北総育成園様

先日は、ご訪問させていただきましたありがとうございます。北総の利用者さんの頑張っている姿を見て感動しました。特に林産班、園芸班の作業がむずかしそうだなと思いました。僕は農場で作業しています。今の時期は、大根が忙しく間引きをしたり、切り干し大根の作業をしています。大根の入ったコンテナを運ぶのが大変ですが頑張っています。

北総の利用者さん、怪我のないようにこれからも頑張ってください。武井園長先生、職員の方々にもよくしていただき、ありがとうございます。来年も出来れば訪問したいです。

ではこの辺で、体には十分気をつけて下さい。さようなら。(近藤七五三也)

②ほくそういくせいえんをほうもんして みなさんからかんげいをしていただきとてもたのしかったです。ありがとうございます。

1日目は、たいいくかんの中でかんげい会をしました。みんなのまえであいさつをしたのはとてもきんちょうしました。

よるごはんは、さしみをとりました。とてもおいしかったです。カラオケもしました。わたしはAKBのうたをみんなであうたいました。2日目は、じんじやおまいりにいきました。

おひるごはんは、ほくそうさんのおべんとうをたべました。とてもおいしかったです。ほくそういくせいえんのみなさんは、とてもやさしくておもしろいひとばかりで、すぐたのしかったです。3日かんおせわになりました。ありがとうございます。またいきたくりました。(宮本有香)

③ほくそういくせいえんをほうもんして みなさんに、かんげいをしていただきとてもうれしかったです。かんげいをしていただき、ありがとうございます。犬がとてもかわいかったです。えんちようせんせいや、しょくいんのかたが、とてもやさしくはなしをしてくださいました。りよかんのゆうはんがおいしかったです。ぜったいにまたいきたいです。おせわになりました。(滝本杏里)

街道をゆく 134

陶芸職人 阿部信一さん

天寿を完うす

武井 敏朗

阿部信一さんは昭和16年船橋駅の近くで生まれた。太平洋戦争勃発の年である。

現在、戦前生まれの利用者5名が北総に暮らす。どの人も70を超えて不思議と元氣。皆それなりに働き者だ。昭和20年8月、広島、長崎に原爆投下。そして敗戦。二度と、戦争はしない。その不戦の誓いは平和憲法として成立。以後、72年の歲月が流れた。

千葉県も千葉市をはじめ幾つかの都市が空襲にあった。そんな中、船橋の街は幸い空襲には合わないで済んだ。今でも駅周辺に戦前の面影が残る。阿部信一さんは生まれて間もなく高熱を発して発育が思うようになくなった。医者から見立ては小児マヒの後遺症。その状態を治す手立ては無いことが分かった。敗戦後の色濃い船橋の街。お母さんの幸乃さんは居ても立っても居られず、信一さ



▲昭和49 (1974) 年。信一さんの北総での暮らしが始まった。お母さんの安堵の笑顔。

んとお姉さんの国子さんを連れて電信柱に貼り紙をして歩いた。「障害を持つた子のお母さんは集まりませんか」。貼り紙を見て、何人かの保護者が集まった。昭和29年、船橋手をつなぐ育成会の成立である。その源流の一滴はわが子を思う切ない母の涙である。

以後、ちはははわが子の行く末を案じ「親亡き後のわが子が安心して暮らせる場所」として施設建設の目標を掲げて、自分たちでバザーをし、行政に働き掛けて幾歲月。

船橋市北総育成園が香取郡東庄町の小高い峠道の一角に昭和49 (1974) 年4月1日開園。

阿部信一さんはこの年34才。晴れて北総育成園の一員となった。お母さんは55才。母子とも若かった。このことは形は違っても他の親子もそれぞれの



▲平成28 (2016) 年。最期の日まで粘土に向き合い作品を作り続けた「陶芸職人」の阿部さんであった。

思いを心にしまつて北総の人となった50名。船橋と北総の立地する北総では80 km離れている。「ナンでこんなヘンピなところで、とおちゃんかあちゃんとかワカれてクラさねばならないのか」。この人たちの嘆きが今でも聞こえる。が、1か月経った保護者会の日。ちちはが船橋から来てくれた。家にいればやることなく新聞紙ちぎりをしていたその子が、クワを使って畑を耕すようになった。手に豆が出来た。遅く陽に焼けていった。阿部さんは足が不自由。手を使って陶芸をやることにした。当初は職員も手探り。笠間や益子に見学にいって教えてもらった。その歲月を今語ることは出来ないが、阿部さんは陶芸一筋40年。阿部さんしか出来ない壺が毎日、一個から二個作られた。70才を超えたころから身体は

指先を除いて、ほとんど無力状態になった。介護的な日常に身を置くこととなる。トイレや風呂は男性職員3人に抱えられて。

平成23年11月船橋市の手により個室棟と本館大改修工事が為された。介護浴槽も設備され、阿部さんは久しぶりにゆつくりと熱い湯に浸かった。「キモチイイ」。その第一声が今でも耳に残る。手先・指先が動く阿部さんは死ぬ当日も陶芸の仕事に向かっていた。享年75才。天寿を完うした。

【お姉さんからのお手紙】

園長先生：  
園長先生 信一が園の暮らしを楽しく過ごせたことを有難う御座いました。

信一の作った壺を展示するコーナーを作ってくださり、30以上の信一の壺を展示していただいたこと、本当にありがとうございます。涙が出るほどありがたく感謝と御礼の気持ちでいっぱい御座います。今頃、信ちゃんは母の手を取り園長先生に作っていたいただいた棚に並んでいる作品を見ているのではないかと思います。

園長先生におんぶしていただいたのも信ちゃんだけかもしれないですね。お陰さまで信一は幸せな人生でした…。

# 12/12 太巻き寿司教室開催



▲バラの花の太巻き寿司が完成！大輪のバラのような皆の笑顔。H28.12.12

去る12月12日龍崎先生、峯岸先生を始め、千葉県伝統郷土料理研究会から総勢15名の皆さんが来園くださり、太巻き寿司教室を開催して下さいました。今年で12回目を数える太巻き寿司教室。千葉県に古くから伝わる郷土料理を自分たちの手で作ることで、先人の知恵を知り、また、食べ物「命への感謝の気持ち」を学ぶこと、即ち食育の観点も大きな意義を持っています。12年前の龍崎先生と武井園長のご縁から始まったこの太巻き寿司教室、継続は力なりとはまさにこのこと。毎年参加する利用者にとって大変楽しみな恒例行事となっています。当日の夕食はもちろん、皆で作った太巻き寿司に厨房手作りのお稲荷さんや煮物、お吸い物を添えての「太巻き寿司ご膳」。参加した利用者はもちろん、皆で大変美味しくいただきました。千葉県伝統郷土料理研究会の皆様、本当にありがとうございます。

ございました。当日参加して下さった講師の方々より感想を寄せていただきましたのでご紹介いたします。

### ◎太巻きずし体験教室に参加して

太巻きずし作りの体験教室には、勤務の関係で2回ほど参加できませんでしたが、1回目から参加しています。はじめは事前にビデオを見て太巻きずしのイメージ作りをして当日に備えて下さっていました。会を重ねる毎に作り方を記憶して下さり、技術も向上し上手に作成できるようになりました。そして訪問するメンバーの顔を覚えていて、再会できたことを喜んでくださることに驚きとともに嬉しさを感じています。北総で障害があっても太巻きずしを作ることができると学びました。職員の方々のサポートする姿を拝見し、共に学ぶという姿勢が大事であることに気づかせていただき、太巻きずしの体験教室に参加できていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

作成した太巻きずしが、厨房職員の方の心を尽くした料理と共に夕食に提供され、全員が郷土料理を知る機会となつていふことと思いつつ、次も参加しようと思えます。よろしくお願いたします。(杉崎 幸子)

### ◎太巻き寿司教室に参加して

私は、昨年、今年と2回の参加です。いつも、温かく職員の方に迎えられて、楽しく園の方と一緒に太巻き体験をさせていただいています。私は、何十年前も前は、船橋市の保育園の栄養士でした。

当施設は、船橋市の指定管理を受けているということなので、何かのご縁が合ったのですね。皆様の一所懸命に生きて行かなくてはと思つています。(鈴木 和子)

### ◎太巻き寿司教室に参加して

仕事の都合がつかずにここ数年はお手伝い出来ませんでした。久しぶりに伺いましたら明るい部屋になっていてびっくりしました。

体験していただく園の皆様も待っていて下さったのがよくわかりました。毎年何う先生の顔を覚えていく

## みんなの広場

### みんなでやろう！「水戸黄門体操」

利用者も年々高齢となり、手や足の筋力も落ちてきています。老化を少しでも先送りするためには、長年に渡り取り組んでいるそれぞれの「働くこと」を継続することが一番ですが、それだけではなく仕事とは別に、簡単な運動を意識的に取り入れてみてはどうかと医師の看護師である高根さんが提唱してくれ、せっかくなら、楽しんでみながらできるものを！とインターネットの情報から「水戸黄門体操」をみつけてきてくれました。国民的な人気がある時代劇「水戸黄門」は北総の利用者にもファンが多く、そのテーマソングも誰もが知っている有名な歌。北総の利用者も大好きな歌です。その歌に合わせて手を前に出したり、足踏みしたりと簡単な運動をするのが「水

ださるのも嬉しいです。

調理員の方々も練習していらつしやるのか、とてもスムーズで毎年の成果がでているのだらうなと感じました。きめ細かな指導には人数が必要ですが、終わった後お茶の接待をしていただき部屋を占領してしまつたのではないかと心配になりました。

園の方々の取り組みに私達千葉伝統料理研究会が協力できる機会を作つて下さった龍崎先生に感謝します。

これからも続けていくために会員の皆さんに、当日の様子をお知らせできたらと思います。(姥島 香織)

「水戸黄門体操」です。まずは職員が覚えようと職員会議で曲に合わせて実際に手足の運動を行いました。そして利用者にも「水戸黄門体操」をレクチャー。みんな楽しそうに歌いながら体を動かしてくれました。1月からは各作業班にラジカセを用意し、「水戸黄門体操」を作業の始まりと終わりに行うことを続けています。若い職員は歌がわからず戸惑っている様子もありましたが、そこは利用者がリードしながら歌ってくれる様子もあり、みんなで『水戸黄門体操』を盛り上げてきました。時には勝又さんと敬子さんがお風呂で湯船に浸かりながら「じゅんせういっ」と歌い手を伸ばしている微笑ましい一面もありました。老化は誰にでも訪れますが、作業活動の中で動いて体や手先を動かし、この「水戸黄門体操」で楽しく意識的に運動する取組みを継続することで、少しでも老化を先送りし、元気に過ごせるようにしていきたいと思えます。(保科)

地域の歴史遺産が甦る!!

### 須賀山城址整備 公園化事業継続中

地主さんの了解をいただきながら須賀山城址整備公園化事業が始まって3年半(2013《H25》開始)が経過し、この間着実に整備範囲が広がってきました。事業が始まった当初は本丸跡の平らで広い場所の敷を切り開く作業だったので、大勢の職員と利用者を動員しての大々的なものでしたが、現在切り開いているのは急な斜面を降りた場所だったりするので、少数のメンバーで活動を行うことが多くなっています。今、外部の一般客の見学者は年々増加しているようです。須賀山城址の認知度が少しずつ広がってきているように感じます。そして、8月21日に千葉市において千葉開府890年を記念する「千葉氏サミット」が開催され、全国から千葉氏ゆかりの11市町の首長らが集まりました。北は岩手県から南は佐賀県までの広い範囲から千葉氏一族ゆかりの地の代表が集ったなかで、11番目に「東庄町」の名前があり、岩田町長が参加されていました。須賀山城址整備の活動が微力ながらも役に立ったのであれば幸いです。今後10年後の千葉開府900年に向けて、ゆかりの地の連携を深めていくことなので、ま

すます須賀山城址の重要性が増していきます。全国から見学者が来ることを見据えて、しっかりと整備活動を継続していきたいと思っています。

須賀山城址は本丸跡だけでなく、岡飯田の畑になっているところも含めて広大な範囲が城跡の形状を残しており、全体像を見られることで歴史遺産としての価値がうんと増すと思います。年明けからは、空堀奥の土手の草刈り、片付けを進めています。今後、須賀山城址整備の日を企画して整備を進め、10年後を見据えて目標を高く持って取り組んでいきたいと思っています。

この活動は自然相手の厳しい仕事であり、その中で職員の力量を向

### 船橋市長へシクラメン届け



東庄町にある船橋市の張り子人形などを市に贈った。障害者支援施設「北総育た。成園」(武井敏朗園長) 同園では約70人の利用者の利用者が同市役所を訪らが社会参加のために農の園内丹精込めて育て 耕園芸木など作業をしたシクラメンと来年の干支である「酉」の果物を多く市民に知ってもらったため、毎年夏にアサガオ、冬にシクラメンを約20年前から贈り続けている。市長の大河原一男(右)に代表して訪問、鮮やかな赤や白の花を咲かせたシクラメン7鉢と一緒に張り子と陶芸の「酉」を松戸徹市長に手渡した。

### 育てたシクラメン贈呈

千葉日報 2016(H28)年 12月6日(火)

去る11月21日(月)、松戸船橋市長さんに園芸班シクラメン、陶芸、紙工芸班干支人形、手芸班刺し子袋(バッグ)、林産班椎茸をお届けできました。このことが、12月6日(火)の千葉日報に載りました。

北総利用者は高齢化し、一人ひとりの“働くこと生きること”のエンジンは、一頃より随分小さくなってしまいました。しかし、今は今の馬力があります。その人なりの“働くこと生きること”に支援職員の加勢。それぞれの作業班は今年の格好を付けました。その成果を市長さんにご報告できた嬉しい機会となりました。やることのある暮らしが、一人ひとりの生きる力を引き出します。その力が、自分より弱い立場の人を救う力となります。(武井)



▲篠竹のジャングルであった空堀が見事に再生された。利用者の石毛さんは本当によく手伝ってくれた。H29.1.14

上させることも大きな目標の一つですので、皆で協力して取り組んでいきたいと思っています。(須賀山城址整備公園化事業チーム 高木恭一)

### 編集後記



早いもので年が明けてから1か月が経とうとしています。年々、時間の経過の速さに驚くばかりですが、忙しいだけの毎日ではなく、一日一日を丁寧に、感謝の気持ちを忘れず過ごしていきたいものです。

さて、久しぶりの発行となりました。8月以降行事や研修が重なり、なかなか広報紙の編集に漕ぎ着けず、前号の発行から随分と間が開いてしまいました。私は北総にお世話になった1年目から広報委員ですので21年という長きに渡り、この広報紙の編集に携わっています。毎回、今回の広報紙では何を伝えたいのか、きちんと狙いを持って編集にあたるように心掛けていますが、詰めが甘い所が多々あり、園長にご指導いただくことばかりです。園長は広報紙「北総の里」の初代編集長。文章全体はもろんのこと、かつこの形は何か良いか、平仮名、片仮名の方がより伝わるか、どこに句読点を入れるか、細部にまで心を張り巡らせて編集にあたっていきます。まさに、全身全霊の編集作業。去年8月に長崎の姉コスモス会へ研修で伺った時、理事長の本田利峰先生にその事をお伝えすると「武井先生のお気持ちに紙面から伝わってきますよ」とお話しいただき、感動しました。読者の皆様にもそんな風に思っていただけるよう、今年も広報委員会一丸となって読み応えのある広報紙「北総の里」を発行していきたいと思っています。(絵鳩)